日本女醫会誌

公益社団法人日本女医会
復刊第 230 号
2017 年 5 月 1 日発行
題字　吉岡彌生

巻頭言

女性医師の歴史を振り返る

会長　**前田佳子**

2017 年は会長の逝去という悲しい幕開けとなり、心晴れない毎日が続いております。私は故山本会長の指名で筆頭副会長をさせていただいておりましたので、会長の逝去後は定款に則り会長代行の職に着き、3 月の理事会決議を経て会長を務めさせていただくこととなりました。115 年の歴史ある日本女医会の運営に携わることは名誉なことではありますが、その重責を背負うことは言葉に尽くせないものがあります。今後とも会員の先生方におかれましてはご指導ご鞭撻の程を宜しくお願いいたします。

本年の総会は日本の公許女医第一号となった荻野吟子先生の出生地である埼玉県で開催されます。私が医師を志した原点に帰るべく、医学部受験の頃に読んだ『花埋み』を読み返してみました。ご存じの方が多いと思いますが、渡辺淳一先生が荻野吟子の生涯を綴った名作です。30 年以上前の十代の高校生が読んだ時とは違う感慨と感動がそこにはありました。吟子は苦難の道を乗り越えて公許女医になり志を遂げましたが、すぐに女性の地位向上には社会の変革が必要であることに気づき、女性活動家としても活躍されました。日本は男女共同参画社会基本法が制定されて 18 年目を迎えますが、日本全体をみても男女の平等度は諸外国と比べてかなり低く、世界の流れに追いついていません。女性医師が急激に増加している日本においては、医師の男女共同参画も早急に進めて行かなくてはならないのは言うまでもありません。

海外に目を向けると吟子が医師となった 1885 年から遡ること 26 年、1859 年にエリザベス・ブラックウェルが世界初の女性医師となっています。エリザベスはイギリスで生まれ、苦労してアメリカの医学校を卒業したものの、アメリカの病院からは採用を拒まれます。大学卒業の 9 年後にイギリスで世界初の女性医師として登録されました。彼女もまた吟子と同じく女性の権利向上の活動家として有名でした。

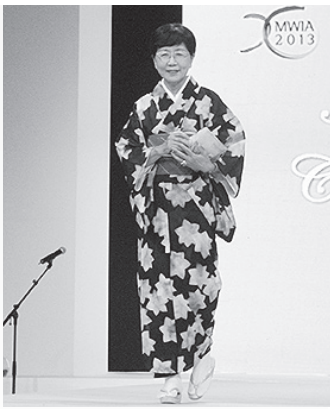
今、改めて吟子の生きた時代を振り返ると、女性が男性と肩を並べて医学を学び医師となることが当たり前となった現代社会においては、より一層医師としての使命を全うすることを忘れてはいけないと思います。そして先人たちの努力に感謝をし、自分自身も更なる努力をしていかなければなりません。（公社）日本女医会は創設者の前田園子先生、初代会長の吉岡彌生先生をはじめとする先達の偉業を今一度振り返り、これから羽ばたく若い先生たちに伝えていきたいと思います。そして、女性医師が今まで以上に活躍出来る社会を育てるための活動を継続してまいります。魅力ある日本女医会であるために、会員の先生方のご支援ご協力をお願い申し上げます。

日本女医会誌（第230号）もくじ

【巻頭言】……前田佳子（1）
追悼　山本纉子先生……(2)
Prof. Bettina Pfleiderer、Dr. Shelley Ross、Prof. Emeritus Khun Nanta Maranetra、Dr. Usha Saraiya、Dr. Helen Goodyear、Prof. Shafika Nasser、Dr. Carole Williams、Prof. Mercedes Viteri、Prof. Kyung Ah、Dr. Christiane Pouliart、清水夏繪、前田佳子
山本纉子先生を偲ぶ会のお知らせ……(5)
委員会報告……(6)
福下公子、金重恵美子、富岡美佳、宮﨑千恵、和田由香
新連載　日本女医会アーカイブ……(8)
第 20 回ブロック懇談会（長野）
……馬場安紀子（9）
第 6 回提言論文……(10)
「イクボスになる！」　蓮沼直子
「継続するということ」　城所朋子
第 62 回定時総会のお知らせ……(11)
国際女医会通信⓫……前田佳子（12）
理事会議事録……(13)
平成 29 年度「児童福祉週間」のお知らせ……(17)
第 38 回日本女医会学術研究助成、第 3 回公益社団法人 日本女医会 学術研究助成　溝口昌子賞、荻野吟子賞、吉岡彌生賞　候補者募集のご案内……(18)
国際女医会からのアンケート調査にご協力のお願い……(20)
会員動静 / 寄附者一覧 / 編集後記 …(20)

追悼

山本纁子先生



平成 29 年 1 月 12 日、公益社団法人日本女医会第 10 代会長の山本纁子先生がご逝去されました。山本先生は、昭和 18 年生まれ、1969 年に名古屋大学医学部を卒業後、名古屋第一赤十字病院勤務、米国シンシナティ名フィール神経研究所を経て、名古屋大学第一内科、藤田保健衛生大学に勤務。昭和 63 年には同大学神経内科教授に就任。平成 21 年からは同大学名誉教授として、医療法人並木会並木病院院長を務められ、生涯現役医師として医療に従事されておられました。ご親交のあった世界中の先生方より追悼のメッセージをいただきましたので、ここに掲載し、ご冥福をお祈りいたします。

国際女医会会長

Prof. Bettina Pfleiderer（ドイツ）

I want to express my deepest sympathy to the passing of your beloved president Professor Hiroko Yamamoto. My thoughts and prayers are with the Japan Medical Women's Association and her family.

Dr. Yamamoto was serving as MWIA Vice president for the western pacific region from 2013～2016 and was presenting this region really well. Even though she was already very ill, she came to the last International MWIA congress in Vienna last year to serve MWIA and her region.

Prof. Yamamoto was visiting me in Münster, Germany, two years ago and we discussed many ideas and projects. Her focus of interest was to improve the health of the elderly. We both were working on projects to prevent violence against the elderly and she gave an impressive presentation in Vienna on this topic. Her knowledge and determination will be dearly missed by me and MWIA. She will be not forgotten.

国際女医会事務局長

Dr. Shelley Ross（カナダ）

It is with a sad heart that I write to convey the condolences of the executive of the Medical Women's International Association on the passing of your President, Hiroko Yamamoto.

I had the pleasure of getting to know Hiroko well, when she served as Vice President for the Western Pacific Region for MWIA. She presented as a caring, compassionate and capable person, who never complained and did her best to forward the goals of the organization.

I was very saddened when she told me last year of her diagnosis. She faced her illness with courage.

I was so pleased that she was able to attend the MWIA Congress in Vienna to say good-bye to her MWIA friends. She told me that she was disappointed that she would not be able to attend the MWIA Centennial in 2019.

Our thoughts are with the JMWA at this time of loss.

タイ女医会会長 .

Prof. Emeritus Khun Nanta Maranetra

We, The Thai Medical Women's Association Under The Royal Patronage of Her Majesty The Queen, are deeply saddened to hear that Dr. Hiroko Yamamoto, previous VP of Western Pacific Region for year 2013 ～ 2016, had passed away. We admire her courage to attend the Vienna's Congress with pride. She looked so elegant despite her illness.

Please forward our sincere condolences to her family and colleagues. Our thoughts and prayers are with her family.

前国際女医会中央アジア地域副会長

Dr. Usha Saraiya（インド）

This is to convey to you & all the Members of your Association our sincere condolences & deepest sympathies. This comes on behalf of all members of Association of Medical Women in India & on my personal behalf.

I have met Dr. Hiroko on several occasions at various meetings & conferences of MWIA. I am glad she was able to complete her term as Vice President in August 2016, despite her illness. I shall cherish fond memories of my friendship with Hiroko.

前北ヨーロッパ地域副会長

Dr. Helen Goodyear（イギリス）

I had not realised that she was unwell. She did quite a lot of walking with me when in Toronto. I can only echo Effie's comments and pass very sincere condolences to her family. Best wishes.

“My sincere condolences to her family. she was lovely lady. I roomed with her many times. She indicated her condition to me in Vienna indicating that that would be the last time I would be seeing her. May her gentle soul rest in perfect peace where there is no more pain.

Effie

前中東 / アフリカ地域副会長

Prof. Shafika Nasser（エジプト）

My heart is with Hiroko's family. When we met in Vienna we were together all the time, she was in good spirit but kept saying you will not see me again as I am not well on treatment. Condolences to MWIA, to Japan MWA and to all women fighting for health. God bless her heart in heaven.

前北アメリカ地域副会長

Dr. Carole Williams（カナダ）

Oh dear, I am so very sorry to hear this. My thoughts are with her family.

前ラテンアメリカ地域副会長

Prof. Mercedes Viteri（エクアドル）

I am saddened by the loss of another companion.
I remembered that we shared the room in Vienna.
My condolences to your family.
PEACE IN HER GRAVE.

国際女医会前会長

Prof. Kyung Ah（韓国）

I attended her funeral with Bong.

There was “Wake Ceremony” on 15th and “Funeral” on 16th.

I saw her beautiful face with hat and earring in the coffin during the ceremony.

We were like sisters and I am in deep grief.

前南ヨーロッパ地域副会長

Dr Christiane Pouliart（ベルギー）

I’ m sorry to hear this.

If possible please convey my sincere condolences to her family.

Kindest regards.

山本纊子先生を偲んで

日本女医会千葉支部　帝京大学名誉教授
清水夏繪

決して失いたくない友人、山本纊子先生を失って深い悲しみのなかにおります。日本女医会会長、並木病院病院長、藤田保健衛生大学名誉教授の山本先生は膵臓がんで平成29年1月12日、急逝されました。享年73歳。前年6月以来、体調不良や痛みにもかかわらず、12月まで診療や仕事を続けられました。お正月はお孫さんと書道を楽しまれ、並木病院職員に新年の挨拶もされるなど、最期まで平常心を保ち、いつものように過ごされたことは驚くばかりです。

私が最後にお会いしたのは昨年11月13日でした。日陰には雪がうっすら残る名古屋にお見舞いにうかがうと、黄色いブラウスの上にベージュのセーターを着た山本先生が院長室へ案内して下さり、そこで昼食をとりながら歓談しました。激痛があるはずなのに、それにひとことも触れず、苦しみや不安を抑えて、いつもの明るい山本先生でした。私たちは、平成5年にバンクーバーで開かれた世界神経学会議のとき、一緒に博物館に足を運んで化石を鑑賞したことや、神経学の大御所とパーティーのテーブルを囲んだ楽しい思い出を語りあいました。先生が米国シンシナティメンフィール神経研究所に留学されたことはその時知りました。山本先生の大変活発で、決断も速く、行動力があり、ぼんやりなどしている間もなかったような生きかたに触れて、「私の何倍ものことを成し遂げておられる」と感心すると、笑いながら「そうよ、もう90歳以上生きたようなの」と仰っていました。

山本先生は、患者さんと対等の立場で真剣に向きあう医療を実践されました。「医師と患者は人として対等です。私も全人格をぶつけて治療します」という言葉からも、先生の覚悟が読み取れます。先生が臨床技術と臨床力を磨き続けたのも、患者さんに力と希望を与えるためだったのです。

脊髄小脳変性症の少女に出会ったのは、名古屋大付属病院に勤務されていた30代のころでした。少女が自分の病気の不安や感じたことなどを闘病日記に綴ったのは、主治医だった山本先生が「私にした質問や私の答え、あなたが感じたことを日記に書いてみたら」と勧めたからです。やがて日記は『1リットルの涙――難病と闘い続ける少女亜也の日記』（幻冬舎文庫）として出版され、映画にもテレビドラマにもなって大きな反響を呼びました。制作スタッフの取材を私も受けました。本のあとがきに寄せた、「だれよりも、（亜也ちゃんに）励まされているのは、この私かもしれない」という山本先生の言葉が胸に迫ります。

神経眼科にも興味を持たれ、脊髄小脳変性症の眼球運動障害を多方面から分析して、眼球運動障害の定量化を試みたり、薬物の効果判定に使われたりしました。後進の教育には心を砕かれ、沢山の若い方達を送りだし、藤田保健衛生大学時代の同門者は約50名、学位取得者、神経内科専門医取得者はそれぞれ約35名と山本先生の後任の現教授野倉一也先生に伺いました。

公的な仕事にも携われ、名古屋市教育委員会委員、委員長、日本医師会理事も務められました。日本神経学会では平成18年5月から、初めての女性理事となり、診療向上委員会、キャリア形成推進委員会、会員動向調査特別委員会などで明快な発言をされ、とくに女性会員が学会で活躍しやすい体制づくりに尽力されました。学会総会時の託児所ができたのも先生の功績です。若手医師の臨床教育がきちんとなされるようにと力説されていたそうです。

ご家庭では3人のお子さんにお弁当を用意し、夕食後職場に戻ることもあったようです。家庭で、職場で、様々な場面で実に多くの方たちと接し、その一人一人に強い印象を残されました。追悼文を書こうとして思い返すと、特記すべき思い出や出来事というよりは、先生と共に過ごした日々の些細なことが不思議と心に残っていることに驚きます。先生の類い稀な人間力、相手の心へ深く届く優しさ故に違いありません。ご冥福をお祈りいたします。

合掌

現役会長との別れを惜しんで

日本女医会会長
前田佳子

公益社団法人日本女医会第10代会長の山本纊子先生は2017年1月12日に永遠の旅に発たれました。2016年5月に会長に再選された1カ月後に診断された膵臓癌に、果敢に立ち向かわれてから僅か7カ月後のことでした。

山本先生は1989年10月に日本女医会に入会され、1993～1996年、2000～2007年、2010～2017年に日本女医会理事を務められ、2010～2012年は副会長、2014年からは会長として日本女医会の指揮をとられました。会長職は2年8カ月足らずと短い期間でありまし

たが、常に和を重んじ、各理事の意見を尊重し、審議事項は多数決で決定されていました。思いやる心（恕）を大事にされた先生のお人柄のなせる采配でした。

理事任期中にはご自身の臨床医としての経験を生かして長寿社会福祉委員会を立ち上げ、日本の超高齢化社会の問題点を掘り下げるために、多くの講習会と講演会を開催されました。国際女医会においては 2013 ～ 2016 年に西太平洋地域担当の副会長を務められました。在任中の 2015 年 4 月には台湾の台北における西太平洋地域会議の開催に尽力され、2016 年 7 月にオーストリアのウィーンで開催された国際女医会議でも、高齢者に対する暴力について基調講演をされました。私はナショナル・コーディネーターとしてご一緒させていただきましたが、西太平洋地域会議では地域の長としてイニシアチブをとられ、国際女医会議においても役員として重責を全うされました。

先生は医師として大好きであった臨床は勿論のこと、並木病院の院長、日本医師会理事をはじめとして、他にも多くの役職をこなされていました。その一方で大変優しい母であり祖母でもありました。お嬢さんの代わりにお孫さんの面倒や食事の支度をマメにこなされていて、

まさにスーパーウーマンでした。先生の背中を見て育った長女の方は医師となり、志を継ぐべく子育てと仕事の両立をされています。近い将来、日本女医会にも尽力してくださることと期待しております。

先生が旅立たれたことがまだ信じられませんが、きっとトレードマークの素敵なお帽子を頭に乗せて、高いところから私たちを見守ってくださっている事でしょう。私も思いやりの心を受け継いで、日本女医会の運営に携わってまいりたいと思います。先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

山本纊子先生を偲ぶ会のお知らせ

公益社団法人日本女医会第 10 代会長の山本纊子先生が本年 1 月 12 日にご逝去されました。心より哀悼の意を表しますとともに、山本先生が弊会にとっていかに大きなご存在であったが今更ながらに思い出されます。

この度は、日本女医会の会員の先生にお集まりいただき、山本先生の思い出やご業績を語りながら、故人が歩まれた足跡を振り返りたく下記の如く「偲ぶ会」を開催したいと存じます。ご多用中かとは存じますが、ご来臨賜りますようお願い申し上げます。

なお、本会は会費制とさせて頂きたく存じますので、お香典、ご供花等は固くご辞退させて頂きますので、ご了承下さい。

記

日　時　平成 29 年 6 月 18 日（日）　午後 12 時 30 分から　（午後 12 時受付開始）
場　所　京王プラザホテル　本館 4 階　『扇』
　　東京都新宿区西新宿 2-2-1
　　電話　03-3344-0111
会　費　20,000 円　（5 月 31 日までにお振り込みくださいますようお願い致します）
振込先　・郵便振替口座：00120-3-69968　口座名：公益社団法人日本女医会
　　・みずほ銀行：渋谷支店　普通口座 1515458

お手数ではございますが、出席をご希望の先生は 5 月 20 日（土）までに
事務局までご連絡（Fax 03-3498-8769　または Email office@jmwa.or.jp）下さいますようお願い申し上げます。

委員会報告

平成28年度
長寿社会福祉事業講演会報告

長寿社会福祉委員会委員長
福下公子

平成28年度長寿社会福祉事業講演会のご報告を致します。

市民公開講座として、『加齢と視覚－見える幸せ－』をテーマに、お二人の講演者を迎え、下記の如く、参天製薬株式会社と本会との共催にて開催致しました。

日　時　平成29年1月29日（日）
　　午後1時30分～3時30分
会　場　アルカディア市ヶ谷　（東京　市ヶ谷）
　　講演1　「加齢に伴う眼の病気」
　　演者　須藤史子先生（東京女子医科大学東医療センター教授）
　　講演2　「高齢者の眼の機能－安全で健やかな生活をするために－」
　　演者　中野匡先生（東京慈恵会医科大学准教授）
参加者　57名

近年の高齢化社会におけるQOLを維持するためには、視力・視野等の視覚が重要であると言われております。視力低下をきたす白内障と認知症発症との相関、眼の成人病である緑内障による視野障害と自動車運転事故、等が注目されています。これより平成28年度講演会は高齢者と視覚について取り上げることと致しました。須藤先生には、白内障、緑内障、加齢黄斑変性、糖尿病網膜症、網膜静脈閉塞等の視覚障害をきたす加齢に伴う眼疾患を症状・病態・最新の治療についてとてもわかりやすく解説して頂きました。中野先生には、失明原因の第1位である緑内障を中心に視力障害や視野障害が及ぼす社会生活への影響について興味深い動画をまじえてわかりやすくご講演をして頂きました。また、講演後はフロアから多くの質問を頂き、丁寧にお答え頂きました。

会場は満席で、回収致しましたアンケート結果から参加者の高い満足度を推察できた講演会でありました。企画した担当委員会として嬉しく思っており、ご協力を頂きました会員の皆様に感謝申し上げます。

最後に、本講演会の共催を快くお受け頂きました参天製薬株式会社に深謝申し上げます。

平成28年度
十代の性の健康支援ネットワーク事業

ゆいネット地域サポーター（岡山）
金重恵美子・富岡美佳

第9回「十代の性の健康」支援ネットワーク協議会
日　時　平成29年1月30日（月）
　　18時30分～21時30分
場　所　岡山中央病院セミナー室　参加：20名

●1部　岡山の現況（敬称略）
1. 学校における性に関する指導について（岡山県教育庁保健体育課　塚崎好起）
2. 岡山県警察犯罪被害者等支援基本計画、性犯罪発生状況、警察における被害者支援（岡山県警察本部県民応接課犯罪被害者支援室　庄司康志）
3. エイズ出前講座の現況とエイズ発生動向、急増している梅毒感染（岡山県保健福祉部健康推進課　感染対策班　坂本三貴）
4. 岡山こども相談所報告（岡山市こども相談所　宮野美保子）
5. 被害者サポートセンターおかやま（VSCO）報告（被害者サポートセンターおかやま：VSCO　平松敏夫、難波光）
6. ピア活動について（岡山大学教育学部　川上莉那、高田真帆）

●2部　話題提供
1. 少子化の時代に私たちのできること　（山陽学園大学看護学部　助産学専攻科教授　富岡美佳）
2. 児童虐待相談・対応事例のリスク因子と虐待種別重症度（岡山大学大学院保健学研究科教授　中塚幹也）
3. 婦人科から見た今の子どもたちの現状（ウイメンズクリニック・かみむら院長　上村茂仁）

4. 多職種連携による思春期の性に関する健康支援（岡山県立大学保健福祉学部看護学科准教授　岡崎愉加）
5. 学校現場を主とする性的マイノリティ生活支援啓発事業紹介（市議会議員　鬼木のぞみ、県議会議員　大塚愛）

本会は、多くの専門家や関係諸機関が集まるという有意義な協議会である。短い時間を有意義に活用するために、事前に参加者から自己紹介、活動内容、発表内容を報告してもらい、事前資料として配布を行うなど工夫している。

今年度は、1部で、岡山の状況を把握するために報告を頂いた。普段は知る事の出来ない、それぞれの諸機関の持つ悩みや活動を知るきっかけとなった。

2部は、10代の性の健康に関する課題や調査結果などが報告され、ディスカッションを行った。

・わが国の母子保健水準は高いが、生涯未婚率の上昇や、シングルマザーや働く女性への支援など多くの課題がある。よりよく生きるために、子どもやおとなのライフスキルの向上が必要である。
・児童虐待のリスク因子として、0歳児ほどリスクが高い事、低出生体重児、発達障害児の子どもなどの場合は重症化しやすい事が報告された。
・性教育の内容を効果的に生徒に伝える方法として、数字やグラフを使うのではなく伝わる方法で伝える必要がある。親の問題などもあり、相談できる環境整備を行う事や信頼できる大人に繋ぐ必要がある。
・思春期の性に関する健康支援を行っている人の多くが多職種連携を求めている。

多くの課題はあるが、今後もこのネットワークを強固にして10代の子どもたちの未来をより良いものしていく事で一致した。

平成28年度
十代の性の健康支援ネットワーク事業講演会

十代の性の健康支援ネットワーク事業委員長
宮﨑千恵

平成28年度（公社）日本女医会の「ゆいネット」活動の一つとして、平成29年3月11日（日）に、東京・アルカディア市ヶ谷において、「今、若い女性の心と身体に何を支援すべきか」といったテーマでの一般公開講座が開催されました。

前田佳子会長代行（当時）の開会のご挨拶の後、講演1の金子法子先生は、地元の広島で、余儀なく中絶をすることになった若い女性達を温かく迎え入れ、中絶手術のみならず、術後の心のケアまで親身になってされており、その赤裸々な体験談に聴衆の皆様が聞き入っておられました。現在、こうした中期中絶にまでに至る主な原因の一つ「正しい性教育が義務教育でなされていない」と痛感され、中学校などに、性教育の出前講座を精力的に行われておられます。

講演2は、私の地元岐阜県の県庁職員の朝倉純子さんによる、岐阜県ワンストップセンター設置までのプロセスについての講演がなされました。平成27年10月より、ワンストップ支援センター：365日・24時間体制、病院拠点型（一部協力診療所）が開設され、29年3月まで（1年半で）、約400件以上の電話相談、12件の医療支援（レイプ直後）がなされております。平成26年から、県庁・子ども家庭課内に支援センター設置準備委員会が設けられ、2年間、国からのモデル事業助成を受けました。こうした地方自治体が積極的に支援するケースは大変珍しく、そのプロセスや、夜間の電話相談コールセンター利用システムなど、大阪の加藤治子先生も、「大変素晴らしい、大阪は全て手弁当です」と羨ましがられていましたが、本年度の国の予算で、やっと全国に1億6000万円の性暴力支援活動費助成金が設けられ、少しずつ、この「ゆいネット活動の輪」が広がって、国を動かしているのだと嬉しく思いました。私が会長を務める岐阜県産婦人科医会では、岐阜大学産婦人科医局と協力し合ってこの事業に全面的協力体制をとっており、岐阜大学の女性医師を含む30名の協力産婦人科医師が昼夜を問わず輪番体制をとっており、今後、全国のどこでも、こうした形態で、性犯罪被害者の救済が行われるようになることを切望しております。

平成28年度
十代の性の健康支援ネットワーク事業
ゆいネット茨城報告

ゆいネット地域サポーター（茨城）
和田由香

平成29年2月23日に、「医療界と教育界の連携で取り組む思春期支援」が開催されました。

最初に、青山晴美先生から「子どもの現状～児童虐待・非行・問題行動～」と題してご講演をいただきました。先生は、児童相談所で虐待対策班長を務められた経験から、支援が必要な家庭がたくさんある実態をお話してくださいました。印象に残ったことは、現場で専門家がそれぞれに一生懸命活動している様子をご紹介くださったところです。医師・学校の教員・警察・児童相談所・市役所など、その職種によって出来ることと出来ないことがあり、「子どものために」と思っても、立場の違いから意見の違いが生じる現状をお話いただきました。深夜に外傷の子どもが救急外来に来た場合等でも、ケースごと

にケガの程度や状況が異なるため、担当一人では現場で決断が難しいこともあるなど、臨場感あふれる貴重なお話を聞くことができました。

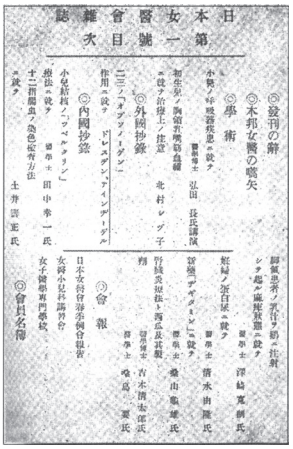
シンポジウムでは「子どものトラブル～その解決に向けて～」と題して、スマホがやめられない子ども、ネットのトラブルに巻き込まれる子ども、危険な大人に誘われる子ども、誰にも相談できない子どもなど、様々な話題が取り上げられました。日本思春期学会の性教育認定講師の有馬祐子先生からは、外部講師として、学校で講演する時の様子などを詳しくご紹介いただきました。また、感染症に詳しい医師からは、女性に梅毒が増えている実態をもっと伝えていく必要がある、と性感染症の予防についてお話がありました。梅毒が増えていることを知らない参加者もいて、終了後も情報交換が続きました。

新連載

JMWA ARCHIVES #001 日本女医会アーカイブ

日本女医会雑誌　第一号　1913（大正2）年6月25日刊

『日本女医会誌』は、本号で復刊230号となりました。現在の『日本女医会誌』は､1913（大正2）年に発行が始まった機関誌『日本女医会雑誌』が、1944（昭和19）年を最後に発行不能となった後、1958（昭和33）年から発行を再開。昭和、平成を通じて現代を生きる女性医師の意見交換の場、また女医会活動の広報としての役割を果たして参りました。


日本女醫會雜誌　第一號目次

創刊号の目次

今回から連載を開始する女医会アーカイブでは、明治から大正、昭和にかけて発行された『日本女医会雑誌』の一部をご紹介し、皆様とご一緒に日本女医会の歴史と激動の時代を歩んだ諸先輩方の足跡を振り返ることができればと存じております。

第1回は、創刊第一号の中から「吾等の為に道を開き賜はりし女史」荻野吟子のインタビュー『本邦女医の嚆矢』からの抜粋です。

兎に角女醫になる志望を起しまして、明治十二年九月、當時の侍醫高階經徳氏の開いて居られる好壽院といふ醫學校に這入りました。此校に這入る事が出來ましたのは石黒男爵の御世話であつたのでございます。此石黒男爵を知つたのは、初め永井久一郎氏（當時私が出ました女學校の幹事をして居られました。）に醫者志願の意を述べました處、同氏から石黒さんに添書を頂きましたので、これに自分の考を認めたものをそへて持て上がつたのでありました。石黒男爵は私の心を諒して下さいまして大變御盡力下され、好壽院へ入學する迄の運びにして下さつたのであります。明治十五年に此處を卒業致しましたが、肝心の開業試驗と云ふものを受ける事が出來ません。まだ女子が醫師免許狀を得た前例がないのであります。折角學術を學んでも之れを人に應用するには資格がなければ所志を果たす事ができません。卒業してから二年の間といふ者、この爲に東奔西走致しました。東京府へ足を運んだことも幾度だか知れませんがなか〳〵とり合つてはくれませんでした。これはどうしても當局の内意を知るより外はない、と思ひまして、明治十七年四月、高島嘉衛門氏の紹介狀を貰つて日本衛生局長の許（當時局長は故長與專齋氏でありました）に參りまして内意を伺ひました。そして愈々許可して頂けねば海外へ行くより外はない、と覺悟したのでありました。處が長與氏は許可してもよい、といふ御考であつたのであります。已でに醫學を修得して出願したのは、女では私が始めてであつたそうで、學力がある以上は開業試驗を受ける事を許可して差支ない、といふ事になりました。それに力を得まして、同十七年九月前期試驗を受けて、首尾よく及第致す事が出來ました。

其當時女子の前期受驗者が（最初の受驗者）私以外に三人ありました。木村秀子、松浦さと子、岡田みす子の方々で、此内初の御二人は成醫會出身（高木兼寛氏が校長の海軍軍醫の學校だつたのであります）でした。此御三人は此時は不合格でございました。そして今は皆故人となられました。

翌十八年三月には後期試驗を及第致しまして、同年五月、本郷區湯島三組町八十四に初めて開業致しました。開業した時も女醫は私一人きりでありました。

（一部、表記を現代かなに変えてあります）

荻野吟子が、その奔走と努力で1885（明治18）年に公許女医第一号となって以来28年で、当時の日本女医会の会員名簿にはすでに200名の女性医師が名前を連ねています。中には釜山、京城など朝鮮半島、またアメリカのフロリダの住所も散見され、当時の女性医師が早くも海外にその活躍の場を拡げ始めていたことがわかります。当時の方々と時代のエネルギーを感じずにはいられません。（文責：広報部）

平成 29 年 2 月 19 日、長野支部では初めてのブロック懇談会を開催しました。前日の理事会後に特急スーパーあずさにて松本に向かいました。天気予報通り、松本駅に到着した 21 時頃には雪が降りしきっておりましたが、翌朝は素晴らしい晴天に恵まれホッといたしました。

会場は松本市中央公民館（M ウィング）で、本部役員 9 名を含む 25 名の出席者がありました。初めに日本女医会の歴史と事業等の紹介、続いて長野県での女性医師支援活動についての講演がされましたので以下に報告します。

1）長野県医師会の取り組み

長野県医師会常務理事の飯塚康彦先生が、日本医師会及び長野県医師会の女性医師支援事業と現状について講演されました。同医師会でも女性役員の増加を推進しているが、日本医師会の目標、女性 1 割運動には程遠い現状であるとのことでした。

2）長野県の取り組み

長野県健康福祉部長の山本英紀先生から、女性医師向けドクターバンク、キャリア形成支援事業、復職支援研修、院内保育所運営補助など、長野県の様々な事業が紹介されました。中でも女性医師 10 名から成る女性医師ネットワーク協議会は、女性医師自身の経験を生かした支援事業を行っていると伺いました。今回の懇談会開催にご尽力いただいた河野直子先生、上條順子先生、黒川由美先生も協議会のメンバーとしてご活躍です。

3）信州大学の取り組み

信州大学の黒川由美先生から、同大学医学部の教育と、学生に対して実施した「男女共同参画」についてのアンケート結果を報告していただきました。

同大学小児科の中沢洋三教授は、広大な長野県内の厳しい診療事情について、また小児科の細分化した専門性に特化したキャリアを積むことで、公私ともに充実した人生を歩んでいる多くの女性医師達について紹介してくださり、大変参考になるお話でした。

総合討論では出席者から活発なご意見があり、医師会、県、大学の支援の連携、支援の周知の要望、卒前卒後の継続的支援の必要性、女性医師の多様な働き方の提案などについて熱心に討論されました。また、お二人の男子医学生さんの真摯でフレッシュなご意見、一人の女子医学生さんの、法科卒業後、より深く人を救うために医学の道を決意したとのお話しに、まさに感銘を受けました。

会終了後には、非常に有意義な話し合いが持たれ勉強になったとの感想が多く聞かれました。今後の日本女医会の活動にも活かしていく所存です。開催にご尽力下さった河野直子支部長ならびに長野県の先生方に心より深謝申し上げます。

プログラム

日時：平成 29 年 2 月 19（日）　10：00 ～ 14：30
会場：松本市中央公民館　M ウィング

1．開会の挨拶
2．日本女医会の紹介（10:10 ～ 11:00）
　司会　日本女医会理事　馬場安紀子
　　1）日本女医会の歴史と活動の紹介
　　日本女医会会長代行　前田佳子
　　2）日本女医会の事業紹介
　　日本女医会副会長　諏訪美智子
　　3）ナショナルコーディネータ報告
　　日本女医会会長代行　前田佳子
3．長野県での女性医師支援活動紹介（11:00 ～ 13:00）
　　1）長野県医師会の取り組み
　　長野県医師会常任理事　飯塚康彦先生
　　2）長野県の取り組み
　　長野県健康福祉部長　山本英紀氏
　　3）信州大学の取り組み
　　信州大学医学部医学教育センター　黒川由美先生
　　4）信州大学の取り組み
　　信州大学医学部医学教育センター　中沢洋三先生
――昼食・休憩（13：00 ～ 13：30）――
4．総合討論（13：30 ～）
　司会　日本女医会長野支部長　河野直子

第6回 提言論文

課　題

『一生の仕事として
女性が医師を続けるには』

イクボスになる！

秋田大学医学部総合地域医療推進学講座　准教授
蓮沼直子

近年、秋田大学医学部では女子医学生が4割を超えたが、医師全体でも20%超となった。また医師国家試験合格者に占める割合も平成12年から30%を超え、今後10年の間に40代女性指導医の割合は3割を超える。しかし、女性医師は30代に病院を退職し、診療所勤務や非常勤になっていることが分かっている。

今回、一生の仕事として女性が医師を続けるためのキーパーソンとしてイクボスを挙げたい。

「イクボス」という言葉は聞きなれないかもしれないが、最近では小池百合子都知事がイクボス宣言したことで、注目を集めた。イクボスとは職場で共に働く部下・スタッフのワークライフバランスを考え、その人のキャリアと人生を応援しながら、組織も結果を出しつつ、自らの仕事と私生活を楽しむことができる上司（経営者・管理職）のことを指す（対象は男性管理職に限らず、増えるであろう女性管理職も）とそのホームページに記載されている。

女性医師が増えた今、イクボスが女性医師に対し仕事を辞めずに継続させようという方針を打ち出し、発信することが重要だ。もちろん女性医師自身が高いモチベーションを持ち続けるのは重要だが、それでもなおライフイベントに左右されている現状がある。一律にすべての女性医師に対する万能な支援策はなく、個別の事情に対応していくことが望まれる。育児中の女性医師の支援体制が整うということは、介護や病気治療、不妊治療など様々な要因で時間制約のある医師にとっても働きやすい職場になる。また、医師だけでなくすべての職種に必要な育児支援と、10年後に頑張ってよかったと思える医師としてのキャリア支援は別に考える必要がある。短時間勤務制度利用者は当直・緊急対応、執刀・技術の習得、学会出張などフルタイム勤務者とは経験内容に違いがあり、さらにパート医は教育的フィードバックの機会を逸していると考えている。よって、それらの経験の担保のための工夫が必要だ。これらはイクボスの仕事であろう。

また、男性医師の価値観も多様化してきた。男性医師が妻の女性医師と協働して家庭運営をすることができれば、女性医師の活躍の幅も広がるし、男性医師のライフの充実にもつながる。女性医師の活躍の推進には男性の家庭参画とイクボスをセットで考えたい。男性医師の家庭参画もイクボスのバックアップが不可欠である。その実現のためには長時間労働や仕事の属人化（例えば主治医制度）などに対しても業務の整理や多職種連携など工夫をしながら対策していくことが必要である。

このような支援により優秀な人材を集め、離職が減ることが期待される。なにより、医療人がゆとりを持って働くことができれば、医療安全上のリスクを下げ、良い医療を提供できることにも繋がる。つまり企業戦略であることを理解したイクボスが増えることが重要だ。そのようなイクボスのもと、次世代のイクボスが育ち良い連鎖を生み出すのだ。

継続するということ

氷川町整形外科・皮ふ科
城所朋子

私は今年で医師となり25年目。4年前に皮膚科を開業した。同期の中では遅い方である。二人の息子の子育てもひと段落つき、現在は、地方に単身で暮らす要介護5の母のもとに月に数回、飛行機で往復している。入院すれば、平日でないと先生と話もおろか、受診もできないので、月曜日に某大学から代診の先生が来て下さるという好機に助けられ、日＆月曜を利用して帰省し、診療を継続している。感謝の気持ちしかない。この機会をお導き下さったのが、今回新しく日本女医会に創設された溝口昌子賞の溝口先生。私は、先生が主任教授で赴任された翌々年に入局した。当時珍しかった女性教授、皮膚科医というより、溝口先生

のもとでトレーニングを受けたいと思い、入局を決めた。患者さんにはとても優しかったが、医局員への指導は厳しかった。臨床、研究、論文と先生はいつ寝ているのかと思う仕事量、でも、いつもおおらかで、厳しいお叱りの言葉にも品があるので、すっと身体の中に入ってくる。「先生、時間は作るものよ」と言われてからは、時間がないからできないということは、私の中にはなしになった。溝口先生は、第 11 回国際女性技術者、科学者会議に「女性医師の立場から」と、医学を志す若き女性へのメッセージを述べられている。医学生の約半数が女性となった現状、出産、育休、子育て中の勤務形態の変更は、避けて通れない社会問題である。親の介護も同じであるが、育休、子育て中の先生世代は、体力はあるはず。意欲と環境があれば、一過性に細くなっても、診療は継続していくことはできると思う。専門医取得後、出産した私に溝口先生は当直がない大学近隣病院の医長の席を用意してくださったが、家族の協力と理解が得られなかった。パートで産後 8 週から週に 2 ～ 3 回勤務することにした。「パートだけでは、手が荒れるわよ、先生」と言われたが、その意味が分かるのは、随分時間が経ってからである。子育てとパート勤務に必死、誰にも頼らず、乗り切ってみせるとやってはいたが、大学勤務していれば、自然に入ってくる新しい知識も当然なく、子供が病気をすると預け先がなくなり、休みが増えて……と八方塞がりになっていた時期がある。溝口先生が大学退官後に勤務された病院で、診療助手を願い出たところ、先生が病院に掛け合って下さり、2 年間先生の診療を研修医の頃のように勉強することができた。ここで、自分の手が荒れていたことに気付いた。私のように、家族に協力が得られない環境で出産し、産休が明けても、大学にフルカムバックまではできない、そんな時期を、医師として手が荒れないように、診療を続けてもらえるシステムが自分のクリニックでできないだろうかと考えているが、何の肩書きも持たない一個人では難しい。優秀な人材が挫折しないように、雇用側もフレキシブルな発想が必要。私も継続するための誰かの力になり、溝口先生の教えもつないでいきたいと思っている。

公益社団法人日本女医会　第 62 回定時総会のお知らせ

平成 29 年度の定時総会は、下記の予定で埼玉県大宮市で開催致します。総会前日の埼玉支部主催のエクスカーションは、情緒あふれる“小江戸”川越の散策です。皆様お誘い合わせの上、ぜひご出席賜りますようお願い申し上げます（会場：パレスホテル大宮）。

平成 29 年 5 月 13 日（土）

13：40　バス配車（大宮駅ソニックシテイ西側道）
14：00　出発
14：40 ～ 16：30　埼玉支部主催エクスカーション
（川越・喜田院、菓子屋横丁）
17：15　ホテル着（チェックインは 14：00 より可能）
18：00 ～ 20：00　埼玉支部主催　懇親会
（4 階ローズルーム）

平成 29 年 5 月 14 日（日）

9：30 ～ 10：30　支部・本部連絡会
10：45 ～ 12：30　第 62 回定時総会
（4 階ローズルーム）
12：30 ～ 13：15　昼食
13：15 ～ 15：00　公開講演会
講師：名越澄子先生
（埼玉医科大学総合医療センター）

（時間・内容等については変更になることもございますので、ご了承下さい）

“小江戸”川越。東京からほど近い埼玉にあるノスタルジックいっぱいの蔵造りの町が魅力的です。太田道灌が川越城を築城した後に江戸城を築城したことから、「江戸の母」とも呼ばれる江戸とは切っても切れない町です。

菓子屋横丁

明治初期に門前町として栄え、昭和初期には 70 軒もの店が並んでいたと言われています。現在は昔の雰囲気いっぱいの町並に 20 数軒の駄菓子を売るお店が連なっています。

喜多院

天長 7 年（830 年）に創建された無量寿寺にあった仏蔵院北院。慶長 17 年（1612 年）に喜多院と改められ、江戸時代を通して隆盛を誇った寺院。寛永 15 年（1638 年）の川越大火で伽藍を焼失しましたが、3 代将軍徳川家光が復興を命じたことから、家光誕生の間や春日の局化粧の間が喜多院に残されることになりました（入場料 400 円）。

国際女医会通信
2017 年へのメッセージ

11 THE LETTER FROM MEDICAL WOMEN'S INTERNATIONAL ASSOCIATION（MWIA）

2016 年 12 月のニュースレターと年末に国際女医会会長から届いた新年の挨拶の内容をお届けいたします。

事務局長からのメッセージにあるように、英国女医会は今年 100 周年を迎えます。次期国際女医会会長の Dr. Fabre（英国）から 5/13（土）に日本のワークライフバランスについて講演を依頼されましたが、日本女医会総会と日程が重なっているため、残念ながらお断りいたしました。

会長 Prof. Pfleiderer（ドイツ）からのメッセージ

中央ヨーロッパ地域会議が 11/23 ～ 26 にモスクワで開催されました。国際女医会からは事務局長の Dr. Ross、中央ヨーロッパ副会長の Prof. Kaladze、次期会長の Dr. Fabre が参加しました。会議のテーマは「ロシアにおける女性と子供の健康」でした。ロシア女医会の入会は最近で、ロシアでの国際女医会地域会議の開催は初めてでした。会議は会長の Prof. Gonchorova によって非常にうまく構成され、素晴らしい演者と議論が行われました。

MWIA の暴力に関するワーキンググループでは、10 月にオンライントレーニング用のケースライブラリーを立ち上げました（https://mwiaviolencemanual.wordpress.com/）。教材として実際の case や様々なトピックス（高齢者虐待など）のイラストのスライドを作成し、これらの教材を用いたワークショップを企画しています。引き続き多くの case を必要としていますので、登録していただける方はメールで送ってください（president@mwia.net）。

事務局長 Dr. Ross（カナダ）からの報告

CSW（The Commission on the Status of Women の略です、Comercial sex workers ではありません！）61 が 2017/3/13 ～ 24 に国連で開催されます。メインテーマは「変化する仕事の世界における女性の経済的エンパワーメント」です。

MWIA の会計年度は 7/1 ～ 6/30 です。7 月には請求書を送らせていただいています。会費納入していただいた会員にはお礼を申し上げます。まだの会員は納入を宜しくお願い致します。

英国女医会は 100 周年を迎え、記念大会が 2017/5/10 ～ 13 にロンドンで開催されます。
（https://www.regonline.co.uk/builder/site/default.aspx?EventID=1857489）

会長 Prof. Pfleiderer（ドイツ）からの新年の挨拶

多くの人々が難民となって自国を離れなければならない状況を考えると、 2016 年を楽しい気分で振り返る事が出来ません。苦しんでいる人々のほとんどは女性か子供達です。私の住んでいるドイツでも、数週間前にベルリンの X'mas マーケットにトラックが突っ込むというテロが起こりました。沢山の人が負傷し、12 名は命を落としました。テロは人々の憎しみや反社会思想を凶器に変えます。これを解決するためには、人々が兄弟や姉妹のように尊重しあい、お互いの理解を深め、平和な世界を築くことが重要だと思います。

MWIA とその会員は女性と子供に対する暴力と戦い、健康と生活環境を改善し精神的に支えるための「変革の大使」のロールモデルとして必要とされています。

今年の最後を私の大好きなマララ・ユスフザイさんの一節で締めたいと思います。「私は叫ぶことはできないが、声が聞こえない人は聞くことができるように、私の声を上げている。私たちの半分が握られていれば成功することはできない」。あなたとあなたの家族に平和で幸せな新年が訪れますように。

西太平洋地域会議のお知らせ

日本から香港は飛行機で僅か 5 時間です。週末旅行のつもりで気軽にご参加ください。インターナショナルな懇親会も国際会議ならではの醍醐味ですよ。

会　期：2017/8/25（金）～ 27（日）
場　所：香港 @Hong Kong Academy of Medicine
　　Jockey Club Building
テーマ：女性・健康・社会進出
演題募集締切：2017/3/31
事前参加登録締切：2017/4/30
HP：http://web.hkwda.com

文責：NC 前田佳子

公益社団法人日本女医会

(((理事会議事録)))

平成28年度第5回理事会議事録

1．日時　平成28年11月19日（土）
午後3時30分～午後5時30分
2．場所　日本女医会　会議室
3．出欠席者
1）出席者
理事　大谷智子　諏訪美智子
前田佳子　今村純子
岩崎惠美子　小泉ひろみ
澤口聡子　鈴木カツ子
対馬ルリ子　中田惠久子
花岡和賀子　馬場安紀子
福下公子
監事　塚田篤子　津田喬子
2）欠席者
理事　山本纐子　赤澤純代
泉　美貴　磯貝晶子　内潟安子
濱田啓子　宮崎千惠

1. 継続審議事項

1．第62回定時総会について　（継続）
・馬場理事より、総会当日のスケジュールが提示された。
・総会当日の昼食は、以下に決定した。（承認）
見積価格：幕の内弁当　2,300円（無料ほうじ茶付）
税・サービス料・手数料込で3,000円
・総会の案内、及び出欠ハガキの発送は、1月の理事会において議題を最終決定し、2月に発送することとなった。（承認）
・その他、中田理事より、埼玉支部での準備の進捗状況の説明があった。

2．会誌広告料について　（承認）
・検討の結果、平成29年度以降の会誌広告料は据え置きと決定した。

3．役員選挙制度改革委員会について
・大谷副会長より、11月24日（木）に第1回選挙制度改革委員会の開催を予定している旨の報告があった。

2. 審議事項

1．学生会員規程変更及び学生会員名簿作成について　（承認）
・前田副会長より、「学生会員規程」の変更案が提示され承認された。
・前田副会長より、ホームページの学生会員募集要項の変更案が示されて、更新することが承認された。

2．入会及び退会規程変更について　（承認）
・諏訪副会長より「入会及び退会規程」、「資金の設置及び管理規程」の変更案が提示され承認された。

3．会誌発行回数とホームページのリニューアルについて　（承認）
・資料に基づき花岡理事よりホームページのリニューアル、及び会誌発行回数について説明があり、以下が承認された。
・平成29年度の会誌の発行は年3回とする。
・平成30年を目標に、ホームページのリニューアルの準備を開始する。

4．十代の性の健康支援ネットワーク事業外部委員について　（承認）
・今後は呼称を「地域サポーター」とすることとし、以下の6名が承認された。（敬称略）
堀本　江美（北海道支部）
齊藤　惠子（岩手支部）
和田　由香（茨城支部）
早乙女智子（京都支部）
齋藤　洋子（愛知・岐阜支部）
金重惠美子（岡山支部）

5．平成28年9月・10月会計報告　（承認）
・平成28年9月・10月会計報告が承認された。

6．平成28年度第4回（9月）理事会議事録　（承認）
・以下を修正し、馬場理事、今村理事を議事録署名人とし、平成28年度第4回（9月）理事会議事録が承認された。
金谷弥栄先生 → 金井弥栄先生

3. 報告事項

1．各部、NC報告
1）庶務部報告（資料8）
・今村理事より、会員動静について報告があり、正会員4名、学生会員3名の入会が承認された。
・馬場理事より、平成28年度のブロック懇談会の開催予定について報告があった。
平成29年2月のいずれかの日曜日に松本で開催予定
・馬場理事より、事務局内のトイレの故障について報告があり、検討の結果、事務局、及び会議室のトイレのリフォームが承認された。　（承認）
2）広報部報告
・花岡理事より会誌229号の締め切りを12/10とする旨報告があった。また、229号の発送には国際女医会のチラシを同封することが報告された。
3）会計部報告
・諏訪副会長より、長期会費未納者（3年、4年）の回収状況について報告があった。
・諏訪副会長より、10月発送の会誌228号に寄附の御願いチラシを同封した旨報告があった。
4）渉外部報告
・中田理事より、第71回国連総会政府代表顧問布柴靖枝氏歓送会（9/30）に出席した旨報告があった。
・諏訪副会長より、国際婦人年連絡会 国際・開発委員会（11/17）について報告があった。
・諏訪副会長より、CSW61（国連女性の地位委員会）ニューヨーク（2017年3月）参加者募集についての報告があった（申込締切：11/30）。
・諏訪副会長より、国際婦人年連絡会 第5回セミナー（12/9）について参加の呼びかけがあった。
5）事業部報告
・澤口理事より、平成28年度の荻野吟子賞の応募の呼びかけがあった。
・外部選考委員は、引き続き溝口秀昭先生にお願いをすることとなった。
6）ナショナルコーディネータ報告
・前田副会長より、国際女医会議における非会員のポスター発表が行われた件について藤川前理事に問い合わせを行った旨の報告があった。また、こうした事から今後は学生会員の管理を徹底するとともに、国際女医会議での発表に関しては注意を払う旨が述べられた。

・前田副会長より、香港での西太平洋地域会議（2017.8/25 ～ 8/27）について参加の呼びかけがあった。なお、abstract の締切は、2017.2/17。

2．各委員会報告

1）男女共同参画事業委員会

・前田副会長より、10/30 に開催された平成 28 年度キャリア・シンポジウムの開催報告と理事の出席率が 35 %であったことが報告された。

2）長寿社会福祉委員会

・福下理事より、H28 年度講演会（H29.1/29）について報告があった。

3）小児救急事業委員会

・大谷副会長より、『どうしよう…子どもの救急』の販売状況について報告があった。

4）十代の性の健康支援ネットワーク事業委員会

・鈴木理事より、平成 29 年度のゆいネット講演会（H29.3/11）について報告があった。

3．その他

1）新年会について

・平成 29 年の役員新年会は、会費 12,000 円で中華料理とすることが決定した。

2）軽井沢セミナーについて

・馬場理事より、10/24 に開催された軽井沢セミナーについて報告があった。

3）事務局より、青山宮野ビルの管理状況について説明と文書の配布があった。

公益社団法人日本女医会

(((理事会議事録)))

平成 28 年度第 6 回理事会議事録

1．日時　平成 29 年 1 月 15 日（日）午後 1 時 30 分～午後 3 時 30 分

2．場所　日本女医会　会議室

3．出欠席者

1）出席者

理事　大谷智子　諏訪美智子
前田佳子　赤澤純代　磯貝晶子
今村純子　岩﨑惠美子
小泉ひろみ　澤口聡子
鈴木カツ子　中田惠久子
花岡和賀子　馬場安紀子
濱田啓子　福下公子
監事　塚田篤子　津田喬子

2）欠席者

理事　泉　美貴　内潟安子
対馬ルリ子　宮﨑千惠

※開会にあたり、前田会長代行より平成 29 年 1 月 12 日に逝去された山本纐子会長から生前に送られたメッセージが読み上げられ、出席者全員による黙祷が捧げられた。

1. 継続審議事項

1．第 62 回定時総会について

1）議題案について　（承認）

諏訪副会長より、総会における管理運営資金の使用に関する議題を掲載するか否かが提示され、塚田監事より平成 28 年当時の総会についての説明があった。検討の結果、掲載が承認された。

2）会員向け案内の内容について　（承認）

埼玉支部で作成された会員向けの案内が承認された。また、参加申込用紙は、昼食代、及び公開講演会の時間を訂正する。

3）公開講演会の演題、及び公開講演会とするかについては、学術部から名越先生にご相談の上決定することとなった。　（承認）

4）総会当日にホテル内にブースを設置するか否かについて、検討の結果、設置が承認された。　（承認）

2．役員選挙制度改正委員会について　（継続）

・大谷副会長より、平成 28 年 11 月 24 日に開催された第 1 回選挙制度改革委員会議事録、及び選挙制度改革アンケートの調査結果が提示された。

2. 審議事項

1．平成 29 年度事業計画案、及び予算案について　（承認）

・諏訪副会長より平成 29 年度事業計画案、及び予算案が提示され、変更等がないかの確認があり、承認された。

2．山﨑倫子賞規程について　（承認）

・前田会長代行より、平成 27 年度第 7 回理事会において承認された山﨑倫子賞につき、規程が提示され、承認された。なお、施行日は平成 29 年 1 月 15 日とする。

3．各賞選考会外部委員について　（承認）

・山本纐子会長の逝去により欠員となった各賞選考委員につき、外部委員として東京女子医科大学東医療センター泌尿器科教授の中澤速和先生に委嘱する旨が提案され、承認された。

4．平成 29 年度男女共同参画事業委員会講演会の日程について　（継続）

・前田会長代行より候補日が示されたが、軽井沢セミナーの日程の確認の後、次回理事会において決定することとなった。

5．平成 28 年 11 月・12 月会計報告　（承認）

・濱田理事より平成 28 年 11 月、及び 12 月の会計報告があり、承認された。

・諏訪副会長より、前回理事会において提案のあった予算実績対比表の作成について長岡公認会計士とも協議の結果、以降は作成しないことを決定した旨報告があった。

6．平成 28 年度第 5 回（11 月）理事会議事録　（承認）

・平成 28 年度第 5 回（11 月）理事会議事録に、馬場理事、及び今村理事を議事録署名人として記載することで承認とされた。

・なお、本理事会の議事録署名人は岩﨑理事、及び澤口理事が指名された。

7．その他

3. 報告事項

1．各部、NC 報告

1）庶務部報告

・岩﨑理事より、会員動静について報告があった。

諏訪副会長からは、会費長期未納者の入金状況について報告があっ

た。
・なお、次回理事会からは新入会員については、入会申込書を資料として添付するよう前田副会長より指示があった。
・馬場理事より、長野県松本市で開催されるブロック懇談会の進捗状況について報告があり、役員に対して参加の呼びかけがあった。
・岩崎理事より日本女医会吉岡彌生賞の応募状況について報告があった。
2）広報部報告
・大谷副会長より 1/25 発送予定の会誌 229 号の故山本纊子会長の巻頭言に、訃報、及び前田副会長が会長代行を務める旨を掲載することが報告された。
・福下理事より、229 号には長寿社会福祉事業講演会、及びゆいネット講演会のチラシを同封する旨の報告があった。
3）会計部報告
・諏訪副会長より、会費長期未納者の入金状況について報告があった。また、会員資格を喪失する未納期間は 4 年から 3 年に短縮する旨の報告があった。
・諏訪副会長より、10 月～ 12 月の期間の寄付金額が報告された。
・また､前田会長代行から現在の理事、及び監事にそれぞれ 10 万円の寄附をお願いしたい旨が提案された。
4）渉外部報告
・中田理事より平成 28 年 12 月 20 日に布柴靖枝氏の国連総会報告会に出席した旨報告があった。
5）学術部報告
・磯貝理事より第37回学術研究助成、及び第 2 回公益社団法人日本女医会 溝口昌子賞の応募状況について報告があった。
6）事業部報告
・澤口理事より荻野吟子賞、及び提言論文の応募状況について報告があった。
・濱田理事より、平成 28 年 11 月 19 日に札幌で開催された『女性が活躍する時代をつくるのは誰か』についての報告があった。
・社会学専門医の育成事業について検討中である旨報告があった。
7）ナショナルコーディネータ報告
・前田会長代行より、山本会長の逝去に対する国際女医会会長からのメッセージが読み上げられた。

2．各委員会報告
1）長寿社会福祉委員会
・福下理事より、平成 28 年度講演会（平成 29 年 1 月 29 日）の進捗状況について報告があった。
2）小児救急事業委員会
・大谷副会長より『どうしよう…子どもの救急』の販売状況について報告があった。
3）十代の性の健康支援ネットワーク事業委員会
・鈴木理事より平成 29 年 3 月 11 日開催予定の講演会の概要について報告があった。

4．その他
1）前田会長代行より、平成 28 年 12 月 22 日に発生した糸魚川火災での会員の被災状況について、今回は大きな被害を受けた会員はいなかった旨の報告があった。
2）前田会長代行より、平成 28 年度の理事会、及び講演会への理事の出席率について報告があり、出席の呼びかけがあった。

公益社団法人日本女医会

(((理事会議事録)))

平成 28 年度第 7 回理事会議事録

1．日時　平成 29 年 2 月 18 日（土）
午後 3 時 15 分～午後 5 時 15 分
2．場所　日本女医会　会議室
3．出欠席者
1）出席者
理事　大谷智子　諏訪美智子
前田佳子　赤澤純代　磯貝晶子
小泉ひろみ　澤口聡子
対馬ルリ子　中田惠久子
花岡和賀子　馬場安紀子
濱田啓子　福下公子
監事　塚田篤子　津田喬子
2）欠席者
理事　泉　美貴　今村純子
岩﨑惠美子　内潟安子
鈴木カツ子　宮﨑千惠

※開会に先立ち、議事録署名人に小泉理事、中田理事が指名された。

1．継続審議事項
1．第 62 回定時総会について　（継続）
・前田副会長より、公開講演会の演題が発表された。
演題：『C 型肝炎ウイルスを飲み薬で消せる時代へ』
2．平成 29 年度事業計画、及び予算案（内閣府提出）承認の件　（承認）
・平成 29 年度事業計画、及び予算案が承認された。
・長岡公認会計士より資料に基づき、現在の財政状況について説明があった。費用の節減はすでに限界に近い状態まで行われており、今後の会の存続は安定的な収入（会費収入および永続的な企業・個人からの寄附）を得ることである旨が述べられ、加えて、今後収入が確保できない場合には、会の運営のために積み立てられている特定資産の使用もやむを得ないであろうという見解が述べられた。
3．役員選挙制度改正委員会について　（継続）
・大谷副会長よりアンケートの結果を各支部長に送付すること、今後は規程の草案を委員会で協議してゆく旨の報告があった。

2．審議事項
1．平成 29 年度男女共同参画事業委員会講演会の日程について　（承認）　平成 29 年度男女共同参画事業講演会の日程について協議した結果、候補日 10/28、もしくは 10/29 のうち 28 日を優先として、会場のルークホールに打診することとなった。
2．規程変更について
1）各賞選考規程　（承認）
前田副会長より、資料に基づき各賞の選考委員の内訳等についての変更案が示され第 4 条を「選考委員会

は、7名（会長、副会長、学術部担当理事、外部委員）の委員を」とすることで承認された。

2）役員定数　（承認）

大谷副会長より案が示され、役員選出に関する規程変更案のうち第2条の「会員数の減増」を「増減」に修正、（ただし…する。）の括弧を削除することで承認された。

3．讀賣エージェンシーからの名義後援依頼について　（承認）

対馬理事より讀賣エージェンシーから依頼のあった「ウィメンズ・ヘルス・アクション・シンポジウム」について説明があり、名義後援が承認された。

4．金沢医科大学「水月会」からの名義後援依頼について　（承認）

赤澤理事より、金沢医科大学に於いて開催されるキャリア研修について説明があり名義後援の依頼があった。協議の結果、名義後援が承認された。

5．茨城でのゆいネット講演会への助成について　（承認）

前田副会長より今年度のゆいネットの予算について説明があり、茨城で開催予定のゆいネット講演会への5万円の助成が承認された。

6．故山本纐子会長を偲ぶ会開催について　（承認）

前田副会長より、故山本纐子会長を偲ぶ会の開催について、日本女医会主催で会費制の会を開催する旨が提案され承認された。

7．日本女医会所属での学会発表について　（継続）

澤口理事より、公益的目的をもった学術事業の展開が提案され、今後の検討課題とすることとなった。

8．平成29年1月会計報告　（承認）

平成29年1月の会計報告が承認された。

9．平成28年度第6回（1月）理事会議事録　（承認）

2．継続審議事項の1．第62回定時総会についての4）の「ブース」を「特産品ブース」に変更することで承認された。

3．報告事項

1．各部、NC報告

1）庶務部報告

・馬場理事より平成29年1月14日以降の入会希望者2名が報告され、入会が承認された。

・馬場理事より、平成28年度吉岡彌生賞の選考結果について報告があった。

社会に貢献した女性医師の部門：生野照子会員（大阪支部　社会福祉法人弘道会 なにわ生野病院）

・馬場理事より、松本に於いて開催されるブロック懇談会の参加予定者等につき報告があった。

2）広報部報告

・花岡理事より、会誌230号について報告があった（5/1発行予定。3/10締切）。

・また平成29年度を目途に、誌面のリニューアルを計画している旨が報告された。

3）会計部報告

・諏訪副会長より、長期未納者の支払い状況について報告があった。

・諏訪副会長より平成28年度の寄附の状況について報告があった。これに伴い前田副会長より、役員に対して寄附の協力の要請があった。

4）渉外部報告

・中田理事より、国際婦人年連絡会2016第5回セミナー（12/20）に出席した旨報告があった。

・諏訪理事より国際婦人年連絡会 国際・開発委員会（1/19）に出席した旨報告があった。

5）学術部報告　（磯貝理事）

・前田副会長より、第37回学術研究助成、山﨑倫子賞及び溝口昌子賞の選考結果について報告があった。

●第1回山﨑倫子賞

林　香（慶應義塾大学医学部予防医療センター助教）

●第37回学術研究助成

山崎理絵（慶應義塾大学医学部血液内科　特任助教）

筒井幸（秋田大学附属病院助教）

●第2回溝口昌子賞

清水優子（東京女子医科大学神経内科　准教授）

6）事業部報告

・澤口理事より、平成28年度荻野吟子賞の選考結果について報告があった。

村田　郁（元埼玉支部長）

7）ナショナルコーディネータ報告

・前田副会長より、8月に香港で開催される国際女医会西太平洋地域会議について参加の呼びかけがあった。

8）その他

・諏訪副会長より、国際女医会の strategy and membership committee からのアンケート調査について説明があり、会誌等で周知を図る旨報告があった。

2．各委員会報告

1）男女共同参画事業委員会

前田副会長より、平成29年度は、10/28、もしくは10/29のいずれかで開催する旨が報告された。

2）長寿社会福祉委員会

福下理事より、平成28年度講演会（1/29）の開催報告、及びアンケート結果について報告があった。

3）小児救急事業委員会

大谷副会長より『どうしよう…子どもの救急』の販売状況について報告があった。

4）十代の性の健康支援ネットワーク事業委員

3/11の講演会への参加の呼びかけがあった。

3．その他

1）各委員会交通費支給の規定について

・前田副会長より、第7条（委員交通費は理事会の交通費規程に準じる。……決定する）、と第8条（講演者への謝金は、謝金規程に準じ……支給しない）と改訂することが報告された。

2）前田副会長より、金沢国際女性デー（3/8）の名義後援について、日程が迫っていたため事前に承認した旨報告があった。

以上

厚生労働省より　平成 29 年度「児童福祉週間」のお知らせ

厚生労働省では、子どもや家庭、子どもの健やかな成長について国民全体で考えることを目的に、毎年５月５日の「こどもの日」から一週間を「児童福祉週間」と定めて、児童福祉の理念の普及・啓発のための各種事業及び行事を行っています。

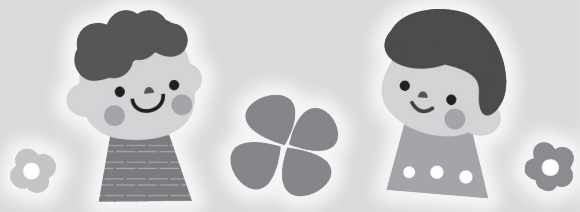
平成 29 年度標語

「できること　たくさんあるよ　きみのてに」（三谷蕗唯さん　8 歳　香川県）

「児童福祉週間」の概要

期　間　平成 29 年５月５日（金）　～　５月 11 日（木）の一週間
主催者　厚生労働省、（公財）児童育成協会、（社福）全国社会福祉協議会
主な取り組み

1）児童福祉の理念の普及
2）家庭における親子のふれあい促進
3）地域における児童健全育成活動の促進
4）児童虐待への適切な対応
5）母と子の健康づくりの推進
6）多様化する保育需要等への対応
7）障害のある子ども等に対する理解の促進



医療機関専売品

Self-Sufficiency & Self-Sustainability

100%ピュアプラセンタサプリメント※
※カプセル内容物は保存料・添加物・賦形剤を使わないプラセンタエキス純末100%です。

JBP ポーサイン 100

JBP プラセンタエキス (ブタ) 健康補助食品シリーズ

JBPポーサイン100は学会・研究発表実績を持ち、様々な医学雑誌に掲載されているプラセンタサプリメントです。

年齢による体調の変化を感じる方、美容が気になる方、若々しさを保ちたい方、家庭でプラセンタのセルフケアをしたい方などにおすすめです。

430mg（内容成分 350mg）× 100 粒入り
セルロースカプセル (植物性) を使用しております。

1日3～6粒を目安に水またはお湯でお召し上がりください。

私達 *JBP* は、プラセンタを通じて、「生命」と「環境」の理想的な循環と維持を実現するライフ・スタイルを提案し続けます。

株式会社 **日本生物製剤**
〒151-0063 東京都渋谷区富ヶ谷 1 丁目 44 番 4 号
http://jbp.placenta.co.jp/

PLACENTAL EXTRACTS by JBP
Japan Bio Products Co., Ltd. Since 1954

第 38 回　日本女医会学術研究助成のご案内

日本女医会では医学の発展・向上に寄与する研究を行っている会員の方々の学術研究に対し、助成事業を行ってまいりました。平成 24 年 4 月に公益社団法人に移行いたしましたので、第 33 回より日本国内在住の女性医師を対象として優れた研究に対して、助成を行うこととなりました。つきましては、希望者は下記応募要領にしたがって当会宛てにご申請くださいますようお願い申し上げます。また、平成 28 年度からは、山﨑倫子氏のご遺志により寄附された基金 1,000 万円から、若手医師の研究助成を行う「山﨑倫子賞」を設立いたしました。学術研究助成応募者の中から、優秀と判断された 1 名に山﨑倫子賞を授与いたしております。

記

1．助成の趣旨：後進の研究助成を図り、医学分野の発展、向上に寄与する事を目的とする。

2．助成金額：1件30万円まで、採択件数は3件以内。うち優秀と判断された1件に山﨑倫子賞として、50万円を助成する。

3．申し込み手続き：

1）応募資格

①申請締切時において満 45 歳未満の日本国内在住の女性医師。

②同一研究課題により他機関の助成を申請している、または助成を受けている場合は、当研究助成の申請を認めない。

③助成を受けた後に上記に抵触することが判明した場合には、助成金の返還を求めることがある。

2）助成期間　原則 1 年間。同一人が重ねて申請をする場合は 5 年以上の間隔をおくこと。

3）応募方法　日本女医会ホームページ（http://jmwa.or.jp/joseikin.html）より所定の用紙をダウンロードして作成し、電子メールに添付して応募。宛先：（公社）日本女医会　office@jmwa.or.jp

4）申込期限　平成 29 年 12 月 25 日必着。

5）選考及び発表方法　選考委員会において選考の上、平成 30 年 3 月開催の日本女医会理事会で決定し、申請者宛てに通知する。

6）助成金の贈呈　平成 30 年 5 月 20 日開催の第 63 回日本女医会定時総会（東京・京王プラザホテルにて開催予定）の席上。被授与者または代理人が必ず出席すること。

7）被授与者の本会に対する報告

①平成 31 年 9 月 8 日までに研究経過報告書（日本女医会誌掲載用）と収支報告書を提出。また、ホームページ「学術研究助成受賞者の軌跡」欄（http://jmwa.or.jp/kiseki/index.html）にも寄稿することを承諾する。

②被授与者は、本助成金授与後 3 年以内に本助成金を受けた研究であることを明記した論文の別刷 10 部を提出し、日本女医会誌等に掲載することを承諾する。

8）問い合わせ先　公益社団法人日本女医会事務局

第 3 回 公益社団法人 日本女医会 学術研究助成　溝口昌子賞

平成 25 年に逝去された故溝口昌子先生の御遺志により寄附された基金から、女性医師のキャリアアップと永年勤続を目的として設立されました。希望者は、下記募集要領にしたがって当会宛てにご申請下さいますようお願い申し上げます。

記

1．助成の趣旨：女性医師のキャリアアップと永年勤続を目的とする。

2．助成金額：1 件 30 万円とし、原則毎年 1 名に授与する。

3．応募資格：申請時に満 55 歳未満で、大学病院または総合病院等に臨床の常勤医として役職に就いて勤務しており、臨床、研究、教育、社会活動等を行っている日本国に在住の女性医師（教授は除く）。

4．提出書類：1）所定の様式の履歴書、推薦状　2）研究に関する自著を含む共著論文　2 編　3）公益社団法人日本女医会会員（選考委員を除く）2 名の推薦状　4）誓約書　5）業績目録　以上の書類を日本女医会事務局まで簡易書留で郵送する。

5．申込期限：平成 29 年 12 月 25 日（当日消印有効）

6．表　　彰：平成 30 年 5 月 20 日開催の第 63 回日本女医会定時総会（東京・京王プラザホテルにて開催予定）において行う。

7．問い合わせ先：公益社団法人日本女医会事務局　（担当：学術部）

日本女医会 荻野吟子賞 候補者募集のご案内

公益社団法人日本女医会は、女性として初めて公に医師の資格を与えられた荻野吟子の偉業を称え、その名を永久に伝え、女性の地位向上を図ることを目的として、「日本女医会荻野吟子賞」を制定しています。

本賞の候補者を募集致しますので、募集要項にしたがってご申請下さいますようお願い申しあげます。

募集要項

1．対象 独自の活躍をもって、女性の地位向上や市井の医療に著しい貢献をした女性医師（原則として1名）に与える。但し、同賞を受賞したことのある者、及び日本女医会吉岡弥生賞を受賞したことのある者は応募することはできない。

2．候補者の推薦 日本女医会員による推薦が必要である。

3．提出書類 所定の様式の履歴書、推薦状を日本女医会事務局まで簡易書留で郵送する。

4．申込期限 平成 29 年 12 月 25 日（当日消印有効）

5．表彰 平成 30 年 5 月 20 日開催の第 63 回日本女医会定時総会（東京・京王プラザホテルにて開催予定）において行い、賞状、記念メダルおよび副賞を授与する。副賞は 5 万円とする。

6．問い合せ先 公益社団法人日本女医会事務局

（担当：事業部）

日本女医会 吉岡彌生賞 候補者募集のご案内

公益社団法人日本女医会は、日本における女性医師の育成の礎を築いた吉岡彌生の偉業を称え、その名を永久に伝えるとともに、女性医師の医学、または社会への貢献を図ることを目的として「日本女医会吉岡彌生賞」を制定しています。

本賞の候補者を募集していますので、募集要項にしたがってご応募下さい。

募集要項

1．対象 公益社団法人日本女医会の最高の賞として、次のいずれかに該当する女性医師各1名に授与する。
1）医学に貢献した女性医師　2）社会に貢献した女性医師。但し、同賞を受賞したことのある者、及び日本女医会荻野吟子賞を受賞したことのある者は応募することはできない。

2．候補者の推薦 日本女医会員2名以上の推薦が必要である。

3．応募方法 所定の様式の履歴書及び推薦状と、下記の内容の業績目録を添えて、日本女医会事務局まで簡易書留にて郵送する。

業績目録　1）「医学に貢献した女性医師」に応募の方 ●査読のある欧文の医学雑誌に掲載された論文のうち筆頭著者 3 編以上を含む 5 編の全文 ●上記以外の査読のある国内外の医学雑誌に掲載された代表的な論文のうち筆頭著者 7 編以上を含む 10 編の論文名、著者名と抄録　2）「社会に貢献した女性医師」に応募の方 ●国内外での医療・保健・福祉活動、女性医師支援および女性医師の地位向上等における業績報告書　1）2）に共通の業績 ●国内外の学会等での特別講演、招聘講演の演題名、講演年月日、学会名、開催地等 ●国内外での活動および国際貢献に対する受賞歴：賞の名称と受賞理由、授与者名及び団体名、受賞年月日

4．申込期限 平成 29 年 12 月 25 日（当日消印有効）

5．選考及び発表 選考委員会において選考の上、申請者宛に通知する。

6．表彰 平成 30 年 5 月 20 日開催の第 63 回日本女医会定時総会（東京・京王プラザホテルにて開催予定）において行い、賞状、楯および副賞を授与する。

7．問い合せ先 公益社団法人日本女医会事務局

（担当：庶務部）

国際女医会アンケート調査へのご協力のお願い

MWIA strategy and membership committee 委員　**諏訪美智子**

次期国際女医会会長の Dr. Clarissa Fabre が委員長をつとめる Strategy and Membership committee に、昨年より委員として携わっています。

この度この委員会が参加国の全会員（医学生から引退した女性医師）を対象とした 25 項目のオンラインによるアンケート調査をすることになりました。

この調査の目的は地域差を理解することや国際女医会の今後の活動方針を決定する上で参考にするためです。アンケート調査は匿名で、所属する地域、年齢層という基本的な質問から、仕事上で女性医師という事で差別を受けたかどうか、国際女医会で取り上げてもらいたい事柄などに関する質問もあります。また No.22 から No.25 の 4 つの質問は 40 歳未満の女性医師と医学生を対象にしたものになっています。

すべての質問とその回答の選択肢は英語ですので、日本女医会の HP にアンケート調査の日本語訳を掲載してありますのでご参照ください。下記にアクセスするとアンケートの質問にリンク致します。

オンラインリンク　https：//www.surveymonkey.co.uk/r/9LTCJMB
締め切りは 2017 年 6 月 7 日です

一人でも多くの日本女医会の会員の声が国際女医会に届きますように、アンケート調査にご協力のほどよろしくお願いいたします。

会員動静

（平成 29 年 3 月末日現在・敬称略）

	氏　名	支　部	卒　年
入会	黒川弘子	埼玉	平 3
	田中真理子	埼玉	昭 63
	田中麻代	埼玉	平 9
	鶴岡優子	栃木	平 5
	牛山元美	神奈川	昭 61
	富永ユリ	徳島	平 3
退会	32 名（自然退会 8 名含）		
物故	原たか子	栃木	昭 36
	稲葉美佐子	千葉	昭 16
	山本纊子	愛知県	昭 44

寄附者一覧

（H29.1 ～ H29.3.31 現在　敬称略）

以下のとおりお知らせいたします。
ご協力ありがとうございました。

濱田啓子（北海道）　塚田篤子（栃　木）
前田佳子（神奈川）　山崎康子（神奈川）
小出彩香（都下東）

編集後記

少しずつ春の温もりを感じています。そしてあと 10 日余りで新年度が始まります。平成 28 年度は激動の一年でした。京王プラザホテルで開催された総会で新役員が選出され、二期目の山本会長のもとで会の充実のために力を尽くす決意をしたものでした。しかしその後間もなく会長が病に臥し、半年足らずで天国に旅立たれてしまわれました。山本会長も心配されていた会員減少など、今後の会のあり方を考えていかなければなりません。そこで歴史を振り返ることも必要ではないかと女医会誌のアーカイブを企画しました。ご一読下さい。（花岡和賀子）

日本女医会誌

復刊第 230 号　2017年5月1日発行
編集人　花岡和賀子
発行人　前田　佳子
制作　あづま堂印刷㈱
発行所　公益社団法人日本女医会
〒 150-0002 東京都渋谷区渋谷 2-8-7　青山宮野ビル
TEL 03-3498-0571　FAX 03-3498-8769
http://www.jmwa.or.jp
e-mail : office@jmwa.or.jp